

1. 評価結果概要表

平成 20 年 10 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503049		
法人名	有限会社 ユアスタッフ		
事業所名	グループホーム みなみの里		
所在地	札幌市南区藤野3条10丁目1-25 (電話) 011-594-7431		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年10月27日

【情報提供票より】 (平成20年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,222 円
その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有 (家賃1か月分 円) 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円) 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円
	夕食 円 おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円

(4) 利用者の概要 (8月25日現在)

利用者人数	9名 男性 2名 女性 7名
要介護1	3名 要介護2 2名
要介護3	2名 要介護4 0名
要介護5	2名 要支援2 0名
年齢	平均 79.4歳 最低 70歳 最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックあい・小笠原クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人ユアスタッフは「自立的な生活を再び取り戻し、生活の再現」をスローガンに掲げている。全職員がサービス提供場面で理念の具現化に努めている。利用者の主体性の尊重や人権を重視した支援が行き届くようケアサービスを厳しく点検し、利用者が安心できる暮らしに力を注いでいる。生活の質を高める様々な取り組みにより周辺症状の緩和や身体機能の低下予防に繋がり、利用者の表情は明るく穏やかに過ごしている様子が窺える。運営者は労働環境整備や人材育成に力を注ぎ、職員研修体制の充実やスキルアップを促進しており、支援の向上にも結実している。豊かな自然環境に恵まれ、セラピーとして猫を飼育している事も特徴的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題、運営理念の啓発では地域と共に存在していることを地域に理解されるよう積極的に発信し、身体機能を補う配慮では浴室・トイレ間の扉を改修し迅速に安全確保を図るなど全ての項目で改善に取り組んでいる。改善計画シートを作成し、課題への対応策など結果を記録している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が個々にシート記入を行ない、会議の中で意見討議がされ、運営者が纏め上げて実施している。運営者、管理者は評価のねらいや意義について職員へ周知を図り、取り組みについて職員自身の気付きにも繋がり、自己評価の目的に結びついている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	初開催より事業所は会議準備や調整に努め、メンバーの積極的な参加が得られており、2ヶ月に一度の定期開催が実現している。会議では、事業所の実情やケアサービスの実際について分かりやすくレポート式に説明し、メンバー間で意見討議されている。ヒヤリハット状況や機能訓練、安全管理等、詳細に情報を開示し、現状や問題の共有化により率直な意見交換が実施され事業所運営や利用者へのケアサービスに活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を事業所内部・外部に設け、意見苦情は真摯に受け止め対処される体制を確保している。家族会や家族訪問、電話の際など接する機会が家族とのコミュニケーションに配慮し、意見や不安なども言い易い雰囲気作りや取り組みに努め、意見聴取への配慮をしている。表出された意見は要因分析や検討を行ない運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設より、地域とのつき合いや協力関係を重視し、地域住民の一員としての意識を持ち運営を行なっている。町内会に加入し、町内会行事への参加や地元高校生の定期的ボランティア受け入れを実施する等、認知症への理解や啓発など社会資源としての機能を展開しながら連携に努めている。地域からの理解と共に、住民と利用者との触れ合いが深まっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	制度改正により、これまでの理念に加えて「地域社会との連携」を新たに掲げている。利用者の人間性を尊重した運営理念の基、地域密着型サービスの果すべき役割を反映した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、定例会議などで話し合う機会を持ち、理念を掘り下げ具体的なケアについての方向性や意見統一を行なうなど、実践の中で具現化に取り組んでいる。また、職員のネームプレートの裏に理念を記載し意識化に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は開設時より地域に開かれた福祉資源としての啓発に努め、町内会に加入し、町内会行事へも参加し、地元高校生の定期的なボランティアも受け入れる等連携がとれている。地域の方々とは野菜や保存食品のお裾分けをし合うなど自然な付き合いの中で、触れ合いが深まっている。	○	事業所では、町内会活動等において、今後更に地域の一員としてできる限りの役割を担うべく、地域と密着したサービス提供に努めたい考えを示している。運営推進会議や町内会組織と協議、連携を図りながら、益々地域との双方向の交流が実現される事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が個々にシート記入を行ない会議の中で意見討議され運営者がまとめている。運営者、管理者は評価のねらいや意義について職員へ周知を図り、評価一連の過程を通じケアの振り返りや見直しに取り組んでいる。課題に対しては迅速に対策を打ち出し、サービスの質の確保に活かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年9月より2ヶ月に一度定期開催し、会議ではレポート式に分かりやすく事業所の現状を説明している。日々の生活リポートではヒヤリハット状況や機能訓練、安全管理等、詳細に情報を開示し、メンバーから率直な意見の引き出しに努め事業所サービスに反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の管理者会議や研究会に出席し、市との情報交換、連携がスムーズに図られるよう努めている。地域包括センター担当者とは、運営推進会議を通じてサービスの課題解決に向けての相談や意見を仰ぐ等、質の向上のための協働に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別の便りや事業所便りの発行等、行事や生活の様子をスナップ写真に収め、暮らしぶりについてエピソードを交え発信している。金銭管理は定期的に行い、支援状況や身体状況に変化が生じた場合は都度報告している。生活の様子を映像化し、家族が参集する機会にミニシアターを催す等、積極的な報告に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を事業所内部、外部に設けて意見、苦情は真摯に受け止め、対処される体制を確保している。家族会や家族訪問、電話の際で意見なども言いやすい雰囲気作りに努め、意見収集への配慮をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動については極力最小限に留め、やむを得ない異動等の場合は、職員全員で利用者をサポートし、ダメージの緩和に努めている。運営者は、職員の向上心や就業に係わる労働環境整備、及びより良い組織管理運営を促進し、職員の定着や馴染みの職員が継続的に支える体制に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に力を入れ、内部研修を開催し法人内合同で様々な学習や伝達講習、勉強会を計画的に実施している。外部研修は職員個々に応じ段階的、計画的に受講できるよう取り組み学びの機会が確保されている。人事考課制度導入により、職員個々が目標を設定し、働きながら研鑽を積み、職員間で互いの資質を高めあう効果的な仕組みが機能している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流や連携の必要性を認識しており北海道、市のグループホーム連絡協議会の組織ネットワークに加入している。同法人事業所間では相互訪問や学習会での協力や連携が保たれ、今後は管理者サイドのネットワークを活かし他法人の同業者と職員レベルで交流を深める計画を進めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所見学や面談を行なう他、入居の不安感が和らぐよう、体験入居も可能であり、希望や実情に応じて、本人の納得のもとサービスが開始できるよう工夫している。職員は利用者が一日でも早く事業所に馴染めるよう、本人の生活歴や心情に配慮しながら信頼関係構築に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持っており、生活をともにする中で生活の技や知恵、日本古来の文化を教えてもらい、支援の中で学びを得ながら過ごしている。夜勤の際、利用者が職員に労いの言葉を掛ける場面もあり、暮らしの中でお互いを分かち合い支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居以前の生活志向ができるだけ継続されるよう家族からの情報を得て利用者中心の暮らしを支援している。職員は日々の気づきを共有しながらアセスメントを行い思いや意向を検討している。表出が困難な場合は、選択的場面を取り入れる等、ジェスチャーを交えながら把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「みなみの里」独自のアセスメントを実施しているが、次回よりセンター方式のアセスメントに移行される。計画書作成に当たっては、職員の日々の気づきや意見などをカンファレンスで共有し、サービス担当者会議でモニタリングを実施し、家族からの意見を反映させ、医療関係者の助言も盛り込みチームとして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了の定期見直しのほか、介護計画の実施期間中においても、実情に即したケアに繋がるよう見直しを行なっている。モニタリングを実施すると共にその都度新しいニーズへの支援についてカンファレンスで検討をしている。利用者の状態変化に応じた見直しは随時行なわれ、家族とはその都度話し合いを行ない合意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活用し医療支援の充実を図ると共に、本人、家族の状況に応じた通院支援や利用者にマンツーマンで付き添う個別外出支援など柔軟なサービスの提供に努めている。ボランティア受け入れ時に研修を実施する等、事業所の機能還元に取り組み多機能性を発揮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の内科医、週1回の歯科医の訪問診療を実施している。看護師は職員として配置し、日々の健康状況を記録した往診時医療連携報告シートを活用し、適切な医療が受けられる為の体制を確保している。実情による入居前のかかりつけ医の受診支援や家族への受診内容の情報伝達や合意形成に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について「重度化した場合の対応指針、終末期の対応」として指針書を作成し、入居時に家族、本人に説明し同意文書を交わしている。状況の変化に応じて段階的な合意を重ね、医療機関や家族と相談をしながら統一的な方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は「利用者、一人ひとりの人格、人間性を尊重します」の理念のもと、人格を尊重し誇りを傷つけるような言葉掛けや対応がないよう十分配慮をしている。第三者への情報提供書、個人情報使用同意書のもと法令を遵守してプライバシーの徹底を図っている。また、みなみの里倫理規定を定め玄関に掲げている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日の流れはあるが、家庭の延長として一人ひとりのペースを大切にして職員本位のケアを行わず、本人が望む過ごし方ができるよう努めている。買い物、外出なども曜日や時間を取り決めず意向による支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の健康に配慮しながら利用者の好みのメニューや食材を取り入れた家庭的な献立で調理されている。買い物、野菜収穫から後片付けに至る食事一連の作業で利用者が力を発揮する場面を作り、外食やテラスでの食事会、行事食を取り入れて多彩な変化をつけ食事が楽しみになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は最低週2～3回、午前中実施され、支援時は職員を1名多く配置しゆったりと入浴を楽しんでいる。設定にとらわれず希望や状況に応じて入浴できる体制も確保している。洗体は利用者と相談しながら個別に対応し、安心感が得られる言葉掛けの配慮に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や菜園、花畑作業、ゲーム、音楽療法、健康体操などの役割や楽しみごとを利用者の有する力や得意分野を活かした場面作りを行なっている。生活の質的向上に力を注ぎ、何がその人の喜びや生きがいに繋がるかを把握、検討し生活の中に溶け込ませる努力が窺える。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所が自然豊かな環境に存在し、居ながらにして季節による五感刺激が十分得られる様子が窺える。散歩やお花見、水族館、観劇等様々な場所へ目的を持った外出支援が行なわれている。気分転換やストレスの発散、力の発揮場面の必要性を理解し、個別の外出支援を積極的に実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ一般家庭と同様、21時から翌朝6時まで防犯のため施錠をしている。日中は職員の見守りや連携プレーで自由な出入りを支援しており、外出傾向の把握や玄関にセンサーを設置して安全に過ごせる工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと年1回避難訓練を実施し、近隣住民の参加を得て昼夜想定の実践的な訓練が行なわれている。災害に備えた食料品は法人内で試験的確保に取り組み、町内会とは緊急時の避難者確保について、今後連携体制を深める考えを示している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事摂取量、水分摂取量をチェックし、トータルバランスの確認をしている。食事が少ない場合や普通食が困難な際は様子を観察しながら個別に合った支援を行なっている。一日の摂取カロリーは1300～1500、水分は1500CCを目途に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衝立障子が懐かしさを醸し出し玄関ホールは広く、洋和二つのリビング、独立したダイニングルームやサンルームがあり共用空間がゆったりとしている。身体機能に配慮し階段に昇降機を取り付け、庭へのスロープも設置中である。絵画や植物、調度品を設え季節感に配慮している。和風庭園にはテーブルや椅子を設置して憩いの場を設け、内・外部共に安らぎ感があり居心地良い共用空間作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は8.2～13.5畳と広く、トイレが設置されている部屋もある。本人や家族の意向のもと個々に応じた生活しやすい居室作りを支援し、馴染みの家具や本人が大切にしている品々が持ち込まれ、生活用品が利便よく収納されている。思い出の品や作品などが思い思いに飾りつけされ、利用者が安心して暮らせる居室になっている。		

※  は、重点項目。